



令和8年2月2日
清瀬市立清明小学校
校長 渋谷 正芳

1月には1年生のクラスで嘔吐症状のある児童が複数名いたため、学級閉鎖を行いました。学級閉鎖をしていないクラスや学年でも腹痛、嘔吐、下痢といった消化器症状のある児童の欠席がありました。

ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎は秋から冬に多く発生します。感染力が強いので、家庭内での感染にも注意が必要です。学校でも引き続き、手洗いなど、感染予防に努めてまいります。ご家庭でのご理解とご協力をお願いいたします。

感染性胃腸炎

病原体 : ノロウイルス、ロタウイルスなど

感染経路: 飛沫感染、接触感染、経口感染、(ノロウイルスでは空気感染あり)

感染性胃腸炎は、ウイルスが手や身の回りの物を介して口にはいることで感染します。

主な症状: 嘔吐、下痢、腹痛、発熱など

症状が軽くなった後もしばらくはウイルスを排出することがあります。

嘔吐や下痢がある場合は登校を控え、症状がおさまり、食事がとれるようになってから登校してください。体調不良が見られる場合には、無理せず十分な休養をとり、必要に応じて受診をお願いします。

体調が完全に回復しないまま登校すると、本人の負担になるだけでなく、周囲への感染につながることがあります。

お子さんからうつらないように 家庭内の感染予防 4つのポイント



お子さんが感染症にかかり看病に追われ、治ったと思ったらご自身が倒れてしまった……そんな事態を防ぐための、家庭内でできる感染予防のポイントをお伝えします。

①. 手洗い・消毒

看病をした後は石けんで手洗いを。電気のスイッチやトイレの水洗バーなど、よく触るところの消毒も大切です。



③. 食器はよく洗う

子どもの唾液がついた食器には細菌やウイルスが。洗剤でしっかり洗います。

②. タオルを共用しない

タオルを介した感染も多いです。ペーパータオルを準備しておく◎。

④. マスクをつける

不織布マスクは子どもからの飛沫感染をある程度防げます。

1月には**水ぼうそう(水痘)**に感染する方も見られました。水ぼうそうは潜伏期間が14日~16日と長いことが特徴です。そのため、今後周期的に発症する人がいるかもしれません。お子さんが発熱した際には、体に発疹ができていないか、ご確認をお願いします。もしも発疹が見られた場合は、病院を受診してください。